

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
102 - 241	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
231 いいずな	論 I 716	Harmony English Logic and Expression I		

1. 編修の基本方針

本書は、英語教育を通して、確かな学力、多文化共生時代を生きるために求められる資質・能力と、豊かな人間性を育成することを教育理念とし、それを具現化するため、次の3点を編修の基本方針としました。

①「知識・技能」の観点（第1号）

- ・英語で表現するための語彙力、文法力、慣用表現力を育てる。
- ・英語の言語資源を使って、さまざまなタスクを行う力を育てる。
- ・英語でのアウトプット（スピーキングとライティング）の技能を鍛える。

➡語彙力、文法力、慣用表現力を育てるためのコーナーをレッスン内に配置しています。

Forms 英語で表現するための形（文法）を理解する。

F-Guide 個々の文法の意味や働きを把握する。

Expressions コミュニケーションに有用な慣用表現を理解する。

E-Guide **Expressions** で学んだ慣用表現のさらなる例に親しみ、表現の幅を広げる。

Vocabulary テーマに関する語彙を増やす。

➡各レッスンでは課ごとのテーマで自分のことを表現するさまざまなタスクを設けています。話す（スピーチ・やりとり）活動、書く活動、聞く活動、読む活動を、バランスよく、また有機的に組み合わせて置きました。

②「思考力・判断力・表現力」の観点（第4号、第5号）

- ・物事を論理的に思考する力を育てる。
- ・現象を分析し、傾向性や因果関係などを判断する力を育てる。
- ・英語での会話、事物の描写、論理展開などを学習して、自己表現力・対話力を育てる。

➡現象を分析し因果関係などを判断する力や、論理的に思考する力を育てるためのコーナーを用意しました。

Hints for Logical Writing （各課4ページ目）各課テーマに関して書いたり話したりする際の、論理的観点からのアドバイス。

➡英語での会話力を向上させる補助のコーナーを用意しました。

Tips （各課1ページ目）英語でコミュニケーションするうえでのアドバイスを提供。

③「主体的かつ対話的に学習に取り組む態度」の観点（第2号、第3号）

- ・「なすべきこと」について行動計画を立て、それを実行する力を育てる。
- ・他者との協働を通して新たな可能性を創り出す共創力を育てる。

→学習到達目標を提示することにより、主体的に学習に取り組む態度を育みます。

レッスンごとの学習到達目標を SELF-CHECK、Zone ごとの学習到達目標を Study Flow として提示し、英語で表現する意欲と主体性を持たせます。学習の振り返りと自己評価も行えるようになっています。

→主体的・対話的に学習に取り組む活動を、各課のゴールに置きました。

Active Learning

（各課4ページ目）各課のゴールとなる4ページ目を **Active Learning** と題し、与えられたテーマについて主体的に考えたり調べたりしたうえで、自己発信を行う場としました。



Share

Active Learning では、**Share** というグループで情報交換を行うステップを毎回踏ませることで、協働を通して新たな可能性を創り出す共創力が育めるように設計しました。

2. 対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
各 レ ッ ス ン 1 ペ ー ジ 目 ～ 4 ペ ー ジ 目	Lesson 1～18	高校生にとって身近な「旅行」「学習・課外活動」「食文化」「健康」などのほか、「自然」「発明」「都市・町」など、幅広い多様なテーマや場面を取り上げました。 (第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。)	各レッスンの： 1ページ目 Start-Up 4ページ目 Active Learning
	Lesson 8、18	勤労に係る「将来したい活動」「願い事」をテーマに取り上げました。 (第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。)	57～60、115～118 ページ
	Lesson 15、16、17、18	社会に積極的に参画する心を育むため、「交通機関」「生活環境」「社会問題」などをテーマに取り上げました。 (第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。)	95～98、101～104、107～110、115～118 ページ
	Lesson 12	自然の尊さとかげがえのない環境について考えさせるため、「自然」などのテーマを取り上げて、思考したり、表現したりする活動を設けました。	77～80 ページ
	Lesson 7、10、15、17、18	言語や異文化に対する理解や関心が深まるように、「日本らしい物の紹介」「新しい製品」「SDGs」「社会問題」など、自国や他国の文化や習慣、技術、諸問題に関するテーマを取り上げ、思考したり表現したりする活動を設けました。 (第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。)	51～54、65～68、95～98、107～110、115～118 ページ
ジ ム 1 ペ ー ジ	Forms	当該レッスンで扱う学習項目の解説をし、その記述を生徒にとって分かりやすいものにするすることで、主体的に予習と復習をする学習習慣を身に付けることができるように工夫しました。(第2号)	各レッスンの1ページ目
ペ ー ジ 2 ～ 3	Task	各3領域の技能を用いて表現をする活動を有機的に組み合わせて、言語の統合的な理解を促す構成としました。(第1号)	各レッスンの2～3 ページ目

目次	・ Share ・ Write	Share と Write では、社会形成に参画する喜びを与えるように工夫しました。(第3号)	各レッスンの4ページ目
コラム 1ページ	・ COMMUNICATION TIPS ①～③ ・ Zone Review (全4回) ・ Pre-LESSON	言語について、幅広い知識と教養を身につける扶助となるコラムを設けました。(第1号)	・ 37、50、87 ページ ・ 35、55、85、119 ページ ・ 93、99、105、111 ページ ・ 94、100、106、114 ページ
複数ページコラム	・ スピーチをしてみよう！ ・ パラグラフを書いてみよう！ ・ プレゼンテーションをしてみよう！	・ 相手の気持ちを配慮しつつ、意図を円滑に伝達するための知識を提供した。(第1号) ・ 社会人になって勤労に従事する際に有用な、伝達手法（ライティング・スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・ディベートなど）の知識を提供した。(第2号)	38～39 ページ（スピーチ） 74～76 ページ（パラグラフ） 112～113 ページ（プレゼンテーション）
返し 後見	Study Flow	生徒自身が目標を意識し、学習意欲を向上させることができるように、学習到達目標を一覧形式で表示した。(第2号)	後見返し

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 学習上の配慮

- ・ 題材や登場する人物などについては、性別による偏りがないように配慮しました。また、人種や身体的特徴などについても、多様性に留意しました。
- ・ 豊かな人間性、創造性の獲得に資するため、紙面全体を通じて美しく読みやすい書体や、色彩豊かなデザイン、親しみやすいイラストを用いるように心がけました。
- ・ 各レッスンの Start-Up の会話と、Interactions の基本例文は、音声を二次元コードで提供し、学習者が自由に再生して学べるようにしました。Sounds（発音の学習）ではネイティブスピーカーが話す動画も用意しております。

② 題材の選定

- ・ 性別や人種、特定の世界観や宗教に偏らないように努め、広いものの見方ができるように配慮しました。
- ・ 題材の内容は、学校生活、日常生活、食文化、健康、自然、発明、都市・町、社会問題など、さまざまな分野から選びました。

③ 中学校との円滑な接続

- ・ 中学までの復習と高校への橋渡しをねらいとする Introduction というページを設けました。

④ 環境への配慮

- ・ 管理された森林資源を使用するなど、再生可能で環境にやさしい原料や製法で作られた用紙を使用しています。
- ・ 植物由来の油、およびそれらを主体とした廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ植物油インキを使用しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
102 - 241	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
231 いいずな	論 I 716	Harmony English Logic and Expression I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 高等学校外国語科の目標を実現するための工夫

- 1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらを実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけさせるため、各レッスン中に **Sounds (音声)**、**Vocabulary (語彙)**、**Expressions・E-Guide (表現、言語の働き)**、**Forms・F-Guide (文法)** と要素ごとに解説と例を提示し、タスクの目的、場面、状況に応じて活用できるよう設計しました。
- 2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で情報や考えの要点や、話し手や書き手の意図などを的確に理解して、適切に表現したり伝え合ったりする力を養うため、各レッスン中に **Tips** や **Hints for Logical Writing** などの補助的解説を用意しました。
- 3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うため、**COMMUNICATION TIPS** という異文化コミュニケーションを行う際の留意点を解説するコラムページを用意しました。

(2) 論理・表現 I の目標を実現するための工夫

英語学習の特質をふまえ、話すこと [やりとり]、話すこと [スピーチ]、書くことの3つの領域別に設定された目標の実現のため、レッスンごとにテーマを設け、そのテーマで自分のことを表現するさまざまなタスクを配置し、英語の表現力を育成できるよう設計しました。

学習目標をレッスンごとゾーンごとに明示し、適切な分量のタスクを学びやすい順序で置くことで、英語で表現する意欲と主体性を常に学習者に持たせられるよう留意しました。

各レッスンは、「①導入→②基礎定着→③発展」の3ステップ(4頁)の構成です。レッスンのゴールとなる③発展のステップでは、3領域を総合的に用いて、情報を理解したり自分自身の考えを発信したりする力を養うことに主眼をおきました。

各レッスンのテーマには、「休日・週末にしたこと」「旅行」といった身近なものから、「SDGs」「社会問題」といった高校生の興味関心に訴える深いものまで幅広い話題を選び、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成できるよう配慮しました。

レッスン以外のページとしては、以下などを用意しました。

- ・ **Introduction** (pp.5～17)：「やりとり」「書く」「発表」のためのウォーミングアップを目的としたページ。
- ・ **自己発信活動のページ** (スピーチをしてみよう！／パラグラフを書いてみよう！ ほか)：数レッスンおきに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばせる場。
- ・ **その他のコラムページ**： **Keep Talking** (場面別会話) や、**COMMUNICATION TIPS** (異文化コミュニケーションを行う際の留意点) といったコミュニケーションの補助となるページ。

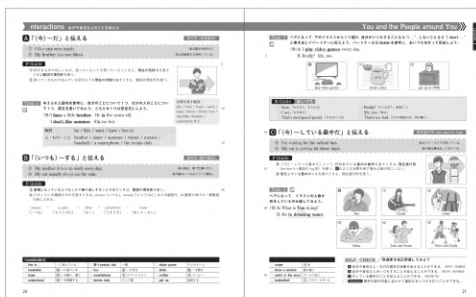
(3) 各レッスンの構成

各レッスンの「①導入→②定着→③発展」の3ステップ(4頁)構成の詳細は、以下の通りです。ステップごとに学習上の目的を明示し、教師にも学習者にも学習の過程が一目で分かるようレイアウトを工夫しました。

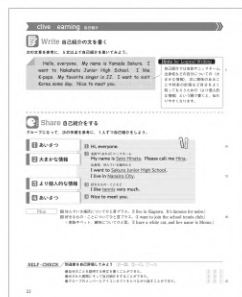
1 導入



2 定着



3 発展



- ① **導入（授業への導入）** さまざまな場面の会話（Start-Up）を題材にして、英語の形や語順、表現、発音・アクセントを意識しながら話す練習をする。

Start-Up レッスンごとに設定したテーマで、高校生が自分の考えや経験を述べた会話の例を掲載している。レッスンで学習する文法と、テーマに関して自分の考えや経験を述べる際に役立つ機能表現を用いている。

Forms 英語で発信するために必要な英語の基本形（文法）を理解する。

Expressions コミュニケーションに必要な機能表現を理解する。

Sounds 日本語の音との違いに気をつけながら、発音の練習を行う。

Talk Start-Up の会話文の音読。ひとりで繰り返したり、ペアになって練習をしたりする。

- ② **定着（Interactions）** レッソンのテーマで、学習する文法項目を使ってやりとりを行う。さまざまな Task（やりとり・書く）を通して知識と技能を身につける。

- ③ **発展（Active Learning）** レッソンのテーマにそって、与えられたトピックに関する発信活動を行う。「話す」活動や「書く」活動を積極的行わせて、論理的に考え、判断し、表現する力をつけさせる。

Share 自分の意見や経験を、グループやクラスメイトに話して情報交換する。

Write 自分自身の意見や経験を、40～50語の英文で書く。

学習到達目標の提示

上記に加えて、レッスンごとの学習到達目標を SELF-CHECK、Zone ごとの学習到達目標を Study Flow として提示することで、学習者に英語で表現する意欲と主体性を持たせることに意を用いています。

- **SELF-CHECK**：各レッスンの3、4ページ目に掲載。学習到達目標をチェック欄とともに提示。

- **Study Flow**：教科書の後見返しに掲載。1st～4th Zone の4段階の学習到達目標をチェック欄とともに提示。

レッスン以外のページ

- **前見返し**：英語による授業に活用できるよう「コミュニケーションのための英語表現」を整理して掲載しています。

- **1 ページコラム**：

COMMUNICATION TIPS：「ノンバーバル・コミュニケーション」「相手に応じたことばづかい」「言外の意味」など、英語の背景にある文化に対する理解を踏まえて、聞き手や読み手に配慮してきちんとした意思疎通ができるような情報とアドバイスを提供しています。

Keep Talking：「移動する」「道をたずねる」「買い物をする」「トラブルに対処する」など、外国で遭遇しうる場面の典型的な会話表現を紹介しています。テーマが関連するレッスンの直後のページに置きましたので、レッスンの延長として使っていただけます。

Pre-LESSON：レッスンで学習する内容の発展的情報を提供するページです。内容は「SDGsのためにできること」「地球温暖化とは？」「食品ごみと食品ロス」「社会問題に関心をもとう」です。

Review：各ゾーンで学習した文法事項をわかりやすく整理して、その要点を解説した復習用のページです。

- **複数ページコラム（自己発信活動）**：「スピーチをしてみよう！」「パラグラフを書いてみよう！」「プレゼンテーションをしてみよう！」など、英語表現力を高めるのに必要な表現手法を紹介しています。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容							該当箇所	配当時間
教材名	言語材料	(1)	(2)	(3)						
				①言語活動			②言語の働き			
				ア	イ	ウ	ア 使用場面	イ 働き		
LESSON 1 Meeting New People	現在形・現在進行形	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 家庭	(ア) 相づちを打つ	pp.19-22	2
LESSON 2 Last Weekend	過去形・過去進行形・現在とは異なる過去の習慣/状態	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭 (ウ) 買物, 日記	(イ) 共感する(感想)	pp.23-26	2
LESSON 3 Weekend Plans	will・be going to・When/If+主語+現在形	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭 (イ) 映画	(オ) 質問する(疑問詞を使った表現)	pp.27-30	2
LESSON 4 A Short Trip	現在完了形・現在完了進行形	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭 (ウ) 旅行	(オ) 注意をひく(話しかける表現)	pp.31-34	2
Keep Talking Scene 1 移動する							(ウ) 旅行		p.36	0.5
スピーチをしてみよう!		ア(ア), (イ)	ア, イ		(イ)				p.38-39	1
LESSON 5 School Rules	can/be able to/may・must/have to/should・Will you ...?	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校での学習や活動 (イ) ポスター	(イ) 謝る(謝罪・反省の表現)	pp.41-44	2
LESSON 6 Are You All Right?	can/may・must/should・助動詞+have+過去分詞	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭 (ウ) 電話	(イ) 心配する(具合や調子をたずねる表現)	pp.45-48	2
Keep Talking Scene 2 道をたずねる							(ウ) 道案内		p.49	0.5
LESSON 7 Things Japanese	受動態・受動態の疑問文・be+過去分詞+前置詞	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭, 地域	(ア) 聞き直す(聞き返すときの表現)	pp.51-54	2
LESSON 8 Talking about Dreams	不定詞名詞用法(主語/補語/目的語)・不定詞の主語/否定形	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校 (イ) 記事	(オ) 助言する(励ましの表現)	pp.57-60	2
LESSON 9 To Keep Fit	不定詞形容詞用法・不定詞副詞用法(目的/原因/根拠)	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 家庭 (イ) 記事	(オ) 質問する(理由をたずねる表現)	pp.61-64	2
LESSON 10 Our Future Devices	動詞+人+to do・使役動詞・知覚動詞	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 家庭 (イ) 広告 (ウ) 広告	(オ) 質問する(見たことがないものについてたずねる表現)	pp.65-68	2
LESSON 11 Talking about Likes and Dislikes	動名詞(主語/補語/目的語)・動名詞の主語/否定形	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 学校, 家庭 (イ) 情報通信ネットワーク	(エ) 承諾する(提案や依頼に対するOKの返事)	pp.69-72	2
Keep Talking Scene 3 買い物をする							(ウ) 買い物		p.73	0.5

パラグラフを書いてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ			(イ)			p.74-46	2
LESSON 12 Reporting Something Unusual	分詞 (限定用法・分 詞形容詞・叙述用法)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭 (ウ) クイズ	(イ) 驚く (分詞形容詞を 使った感情を表 す表現)	pp.77-80	2
LESSON 13 Being in Trouble	get/have・see/hear + 名詞 + 分詞 ・分詞構文	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭, 地域 (ウ) 電話	(イ) 共感する(同 情・共感を表す 表現)	pp.81-84	2
Keep Talking Scene 4 トラブルに対処す る							(ウ) 警察		p.86	0.5
LESSON 14 Great Achievements	関係代名詞 (主格・ 目的格・what)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 地域 (イ) 情報通 信ネットワー ク	(ア) 話題を発展 させる (同意を求める表 現)	pp.89-92	2
LESSON 15 What's SDGs?	関係副詞 (where・when・ why/how)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 地域 (イ) 本	(イ) 驚く (「なんて〜でしょ う!」の表現)	pp.95-98	2
LESSON 16 Climate Change	原級 ・倍数 / 分数表現 ・比較級	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 地域	(ウ) 描写する (「〜がある／い る」の表現)	pp.101- 104	2
LESSON 17 Food Waste	最上級 ・最上級 / 比較を使 う表現	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア), (イ)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 学校, 地域 (イ) 新聞	(エ) 提案する	pp.107- 110	2
プレゼンテーションをしてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ		(イ)				p.112-113	2
LESSON 18 Water Problem	仮定法過去 ・wish/If only/as if/ It's time+ 仮定法	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア), (イ)	(ア), (イ)	(ア) 学校, 地域	(イ) 望む (「〜したい」の 表現)	pp.115- 118	2
計										51